

# 出土骨人た着鎧

渋川金井東裏遺跡から全国初

## 6世紀、噴火で被災



渋川市の金井東裏遺跡で、古墳時代に当たる6世紀初めの火山灰の地層から、武具の鎧よろいを着けた人骨1体が、同県埋蔵文化財調査事業団の発掘調査で出土したことが10日、分かった。

遺跡の近くでは、榛名山が5〜6世紀に数回噴火したことが知られている。今回の人骨は火砕流に巻き込まれたとみられる。

胴部を守る鎧は古墳の副葬品として出土するところが多いが、同事業団によると、実際に装着した状態で見つかるのは初めて。古墳時代に被災した人骨が発見された例もなく、当時の軍備や災害の様子が分かる一級史料と

金井東裏遺跡で見つかった鎧。土と一体化した中央の盛り上がった部分。10日午前、渋川市

なりそうだ。

これまでに渋川市の黒井峯遺跡では、火山から噴出した軽石の下で古墳時代の住居や畑跡が当時のまま出土。鹿児島県指宿市の橋牟礼川遺跡でも平安時代の噴火で埋まった集落跡が見つかった。

婦恋村では、江戸時代の浅間山噴火で火砕流に巻き込まれたとみられる女性2人の遺骨が出土した。

海外では、古代ローマの都市が埋まったイタリアのポンペイ遺跡が有名。神殿や劇場、住居などが多数見つかった。

現地説明会は12日午前10時〜午後3時。

